

Kayak Dog

[Home](#) ▶ [工房 "KAYAK9"](#) ▶ [Wood Duck 12の製作](#) ▶ (13) フィルコート

(13) フィルコート

2011年 10月 16日(日曜日) 21:27 | Author: サセックス卿 | [📄](#) [📁](#) [✉](#)

エポキシを浸透させた (wet-out) ファイバークラスですが、はっきり織り目が残っており、それをエポキシで埋め込んでいく作業が続きます。ファイバークラッシングでは余分なエポキシをスキージでしごき取りましたので、直後の様子はこんな感じです。



照明が真上にあるため写真では実際以上にクッキリ見えていますが、ファイバークラスの織り目が良く分かります。白く光っているのでwet-outしていないようですが、ちゃんとエポキシは浸透しています。これからエポキシを重ね塗りしこの織り目を消し、平滑な表面に仕上げていくフィルコート (fill coat) です。

この工程の目的は、

エポキシによる防水保護層を形成する
塗装のための平滑な下地を作る

ことにあるはずですから、必要十分な厚みの平らなエポキシ塗膜ができればよいのですが、なんといってもエポキシはニスとは比べものにならない高い粘度を持っています。ウネウネ、デコボコ、タレやボタができて後で削ってしまえば (サンダーで大変ならスクレーパーで削ってしまえというもなるほどと納得できる) OK! かも知れませんが、できればサンディングの労は少なくしたいし、下地はキッチリ作っておきたい。

となると、厚めのコートより薄めのコートを心がけた方が良いんだろうか? 製作工程を載せている[あるサイト](#)にはこんな記述がありました。

I've been applying very thin fill coats, as I found that the hull fill coats (which were

メインメニュー

[Home](#)

[工房 "KAYAK9"](#)

[Wood Duck 12の製作](#)

[カヤック製作準備](#)

[アトリエ](#)

[情報源](#)

[アマゾン号に乗りたい!](#)

[コンタクト](#)

[プロフィール](#)

[ブログフィード](#)

[Links](#)

quite thick) produced a lot of drips and runs, which had to be sanded out. So, I decided I'd rather do more, thin fills and save both epoxy and sanding time (which I'm not too fond of).

うーん、確かにそうだよなあ。塗装とエポキシ塗布は別物かも知れませんが、The Epoxy Bookにはわざとゲル化し始めたエポキシを厚く塗るテクニックが述べられていましたから、薄く塗ることが良いかどうか自信はありません（これは今後の課題です）。まっ、とにかく今回はファイバーグラス後、タックフリーを待ち、続けて2回フィルコートを行いました。エポキシが垂れたり、ぼったり厚い部分ができないようコートは薄め（thin coat）を心がけました。

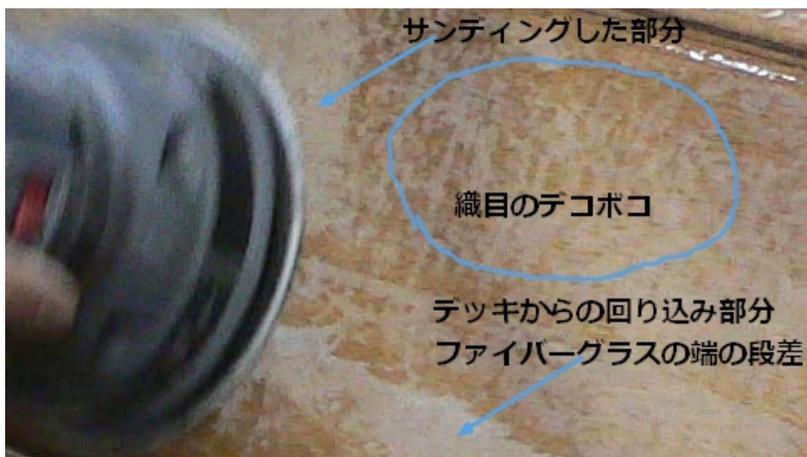
2回目のフィルコートが終わったハルは一見ツヤツヤ、テカテカですが、よく見ると（照明を当てると良く分かるんですね）ボタやタレはないものの表面が以外とデコボコです。



上の写真はボトムパネル、チェーン部そしてサイドパネルですが、ボトムパネルの照明が当たった部分にウネウネと模様が見えます。CLSの[Tipsページ](#)ではファイバーグラス後の興味深い現象が述べられており、それによると「フィルコートしてもファイバーグラスの織り目のままにエポキシが積層し、盛り上がった部分とへこんだ部分ができる」そうです。目を近づけてよく見てみると、確かにファイバーグラスは完全に透明になり、その上にエポキシ層ができているのに織り目通りのデコボコがあります。そこでサンダーをかけてみると・・・



#80で軽く表面をサンディングしてみると（この程度ではファイバーグラスまで削ってしまうことはありません）、高いところが削れて白くなり低い部分はテカったまま残ります。その模様はウロコ雲のようで、ファイバーグラスの織り目そのままに見えます。このままフィルコートをしても平滑にするには沢山のエポキシを厚く塗らなければならないと思えたので、ここで全体が白くなるまで#120でサンディングしてみました。



平滑な下地ができてから、3回目のフィルコートをしたら今度はツルツルになるかなと期待しましたが、そんなに甘くはない。エポキシをスキージで平らにし、スポンジフォームで撫でたけれど、やっぱり僅かなデコボコは残ります。これはエポキシの粘度ゆえに仕方がないのしょうねえ。もちろんこの後でサンダーかけてニス仕上げ塗装の下地をきちんと作りますから、まあこれで良しとしましょう。

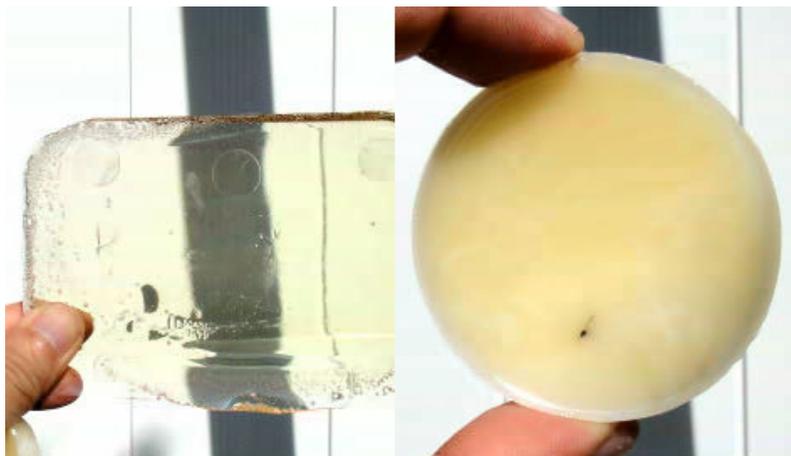
そして4回のフィルコートを終えた状態が次の写真です。チャインにもファイバーグラスのデコボコは手で感じ取れなくなりましたから、これで十分かなと思います。



この工程中にいくつか課題が出てきました。

(1) スキージで表面をならしていくと、スキージ裏に白濁したエポキシが溜まります。細かな気泡が入る

ためだと思われませんが、これをこまめに取り除かないと不透明なエポキシがところどころに溜まってしまい、そのまま硬化するので後悔します。上の写真、スターンにこれが寄せられてそのまま硬化したので若干不透明な部分があります。下はローラーバットで硬化した透明なエポキシとスキージから拭いた不透明なエポキシです。



(2) エポキシコートの難しさを改めて実感しました。粘度の高さに起因すると思われるのですが、もう少し上手くやりたいもんだ。エポキシ粘度を下げたり、工法を工夫する必要がありそうです。

エポキシの温度を上げる (ワーキングタイムが短くなる)

ゲルタイムを長くするためにスロー硬化剤を使う (硬化に時間がかかる)

シンナー (ラッカーシンナー、アセトン等) でエポキシを希釈する (溶剤は使いたくないし、透明度、硬度に悪影響があるとのこと)

刷毛で塗る (腕が必要)

ウレタン・サンディング・シーラーでデコボコを埋める (マニュアルにはクリア仕上げをする場合には避けるようにと)

いずれもエポキシの特性ゆえのことですから、塗装とは考えを変える必要があるのかも知れません。色々試してみようと思います。

(3) 工場の掃除をし、カバーオールを着て作業したにもかかわらず**イヌ毛**が入っちゃいました、トホホ。これはアーサーのウェービーヘアですが、これ以外にもロジャの直毛剛毛も見つかりました。まあ、**KAYAK9**のトレードマークですかね。



最終更新 (2011年 10月 19日(水曜日) 08:10)

powered by Joomla
free templates by Deposit Poker & Unlimited Web Hosting